

2013年5月18日

一般社団法人 J B I A 社員殿

## 定時社員総会開催通知

日頃から、一般社団法人 J B I A 運営に関し多大なるご理解とご協力を賜り有難うございます。さて、定款の定めにより下記要領にて定時社員総会を実施しますのでご案内申し上げます。

一般社団法人 J B I A  
代表理事 星野 敏

1. 日時：2013年5月25日（土）午後1時
2. 場所：一般社団法人 J B I A 主たる事務所  
（東京都港区芝公園3-5-8 機会振興会館 T-B I S C 内）
3. 議事内容：定時社員総会議案（次頁以降）による
4. 議事要領：法第38条「決議においては書面にて行使することができる」併用。  
（例年と同様、全国に社員が存在する J B I A 総会の実施は、経済面で合理的な運用をしたいと思っておりますので、委任または書面決議をご活用下さい。）

書面審議の議決書又は委任状は2013年5月24日17時までに事務局([soukai@jbia.jp](mailto:soukai@jbia.jp))に必着するようご送付下さい。

# 定時社員総会議案

## 議事内容

- I 2012 年度事業報告
- II 第 1 号議案 2012 年度決算承認の件
- III 第 2 号議案 2013 年度予算承認の件
- IV 第 3 号議案 第 3 期役員選任の件

2013 年 5 月 25 日

# 一般社団法人 J B I A

## I 2012 年度事業報告

### 1. はじめに

2012年度は、先の東日本大震災から1か年経過したものの本格的な復興にはなお遠く、原発事故もいつ終息するともしれない暗い話題の反面、社会の表側ともいえる芸能界やアミューズメントの世界は華やかさが目立つアンバランスな年でした。しかし、大企業の業績回復が伝えられる反面、製造業の海外移転はさらに進行し、ものづくり系中小企業の経営はますます深刻化する情報が伝わってきます。

それを反映するかのよう都市部以外ではビジネス・インキュベーションのニーズに高まりが見られ、J B I Aが協力実施するIM養成研修の数と受講希望者は増加しており、わが国経済の実態は、赤字国債が増加し続けることから判断し楽観できる状況ではないと判断しています。

このような傾向に鑑み、全国一律で右肩上がりの経済成長思考ではなく、地域ごとの住民の暮らしを維持することにわが国ビジネス・インキュベーションあり方を修正し、この考え方に基づいたIM養成研修を実施してきました。

また、事務局を置いたK S Pの運営主体である(株)ケイエスピー保有床の使用期限が切れるため、J B I A拠点の移転準備と体制変更を1年かけて実施した年でもありました。

### 2. 2012 年度の活動内容

一般社団法人 J B I A の事業目標に沿い以下を実施しました。

#### 1) 定款記載の事業

##### (1) 人材育成事業協力

(財) 日本立地センター主催 IM養成研修及びBI研修

特定非営利活動法人 教育・雇用研究機構(会津若松)主催 IM養成研修

特定非営利活動法人福島県ベンチャー・SOHOテレワーカー協働機構主催  
IM養成研修

滋賀県IMネットワーク・立命館大学共催 IM養成研修

財団法人三重県産業支援センター主催 IM養成研修

沖縄ビジネス・インキュベーションプラザ主催 OGS-IM養成研修

##### (2) 認定事業(IM認定、BI認定の実施)

2012 年度内に東京 30 期、福島、会津若松、滋賀、三重、沖縄の IM 養成研修修了者、合計 45 名が認定 IM を取得しました。但し整理の都合で発行日が 2013 年度認定者となったものが 11 名おります。

BI 認定については 1 団体でした。

(3) シンポジウム (共催) 実施 (ウェブサイトで広報)

東北地区 奥州市にて開催、10 月 17 日

中部地区 名古屋にて開催 9 月 21 日

関西地区 大阪市にて開催 2 月 8 日

関東地区 (事務局移転業務のため延期し次年度に実施予定)

(4) 地域ブロック IM ネットワーク 活動共催又は参加情報提供 (ウェブサイトで広報)

東北 IM 連携協議会 弘前市 7 月 5 日

中四国ブロック IM ワークショップ 松江市 2 月 26 日

BI P 沖縄、那覇市 4 月 26 日

(5) 地域活動協力 (ウェブサイトで広報)

釜石・大槌地域産業育成センター再生検討委員会参加

いよぎん みらい起業塾 (松山市) オープニングセミナー参加

(6) 情報・広報活動業務

① ウェブサイトによる JBIA の事業紹介

② ウェブサイトによる全国 BI/IM 活動の広報

③ facebook 「IM ホットライン」 非公開グループ 情報交換促進

④ facebook ページによる一般向けトピックスの広報

(7) 海外活動

ソウルで開催された AABI 総会に会員公募により滋賀の大西 IM を派遣した。

2) 日本ビジネス・インキュベーション協会会員状況 (2012 年 3 月末)

・個人	IM	235 人
	Senior IM	42 人
	認定なし	2 人
・BI 内個人	IM	25 人
	Senior IM	10 人
・団体		20 団体
・協賛個人		3 人
・協賛団体		1 団体

4) 理事会開催状況

(1) 2013年3月9日 於T-BISC 新年度、総会計画審議

(2) 電磁理事会

5月19日 会費細則改訂の件

5月26日 定時総会議案承認の件

8月 6日 シンポジウム開催地変更の件

9月26日 協会が同等と認める認定IMの条件追加及び1名認定の件

12月20日 研修修了で入会及び認定申請者23名承認の件

1月29日 1月申請の入会及び認定申請者9名承認の件

3月 6日 2月申請の入会及び認定申請者7名承認の件

3月16日 主たる事務所移転所在地及び期日承認の件

5) 社員総会

6月21日 社員総数10名、出席1名、書面審議者8名、欠席1名

出席率9割、議案賛成率10割

議案 全案承認

6) 社員臨時総会（電磁）

3月13日 主たる事務所移転承認の件

社員総数13名 議案全員承認

## II 第1号議案 2012年度決算承認の件

一般社団法人JBIAは、2012年4月1日より事業計画に基づき、報告書記載の諸事業を実施し、公益活動の団体として決算期を終えた。

収入面は；

- ・複数のIM養成研修協力により多数の会員が増え増加がみられた。

支出面；

- ・毎年2月に実施していたJBIA主催のシンポジウムは、事務局移転作業のため今年度は延期し来年度中盤に行くこととしたため、支出が発生しなかった。また各地のIM活動と共催のシンポジウムも行政等の支援が得られたため支出が少なかった。
- ・地域開催のIM研修協力回数が増え、地域ブロックIM活動への参加が少なかったためこちらも旅費支出が計画より減少した。
- ・公益社団とならなかったことで会計会社への業務委託費増額が発生しなかった。

収入が伸びたことに反し支出が見込みよりかなり減少したため残金を蓄積することとなった。貸借対照表、正味財産増減計算書については添付決算資料を参照下さい。また監査報告書についても添付資料を参照下さい。

## III 第2号議案 2013年度活動方針・事業計画・予算 承認の件

2013年度の活動は、基本方針としては昨年度と同様定款に定めた事業を遂行する。特に今年度は、事務局機能が移転した初年度となり新しい事務局システムの確立と、円滑な活動体制の整備が喫緊の取り組み課題となる。

また、引き続き、わが国が変革期にあるとの認識とBI事業が益々多様化している現状を踏まえ、JBIAの運営にも柔軟性をもたせることを考慮し、下記事項を前提に予算案を策定した。

1. 事務局の移転、体制の確立等で一時的に予算が膨らむが、長期的に俯瞰して、よりコストが掛からず、かつ戦略的な攻めの体制が取れる事務局体制を採ると共に、理事の方々に運営に積極的に参加して頂ける団体運営を目指す。
2. 収入見込みとして、昨年度も大幅な会員増があり、今年度もそれに増加が見込めるものの、退会者もある程度見込めるので、額は控えめとした。
3. シンポジウムは3箇所を予定する。どこで開催するかについては、各地区との調整、開催表明時期、開催に掛ける熱意等で都度協議するものとし、決定を会長一任とする。
4. ある程度、積みあがってきた正味資産の活用方法に関して、理事会で協議を持ち、2014年度以降、実行に移せる具体案を策定する。
5. 公益社団への移行については、会員の中でこの実務に熟知した会員などからアドバイ

スをもらうようにして、具体的な可能性を探るものとする。

6. 地域会員活動へ活発に参加すると会員の評価が高かったのと、海外情報の収集のため、旅費を増額する。
7. 今年度中に発生する新事務局移転費を計上する。  
予算案は添付 2013 年度予算案のとおり。

### Ⅲ 第 3 号議案 役員選任の件

第 2 期（2011～2012 年度）の役員任期が 2013 年 3 月 31 日で終了（定款第 4 条 1 項、2 項）したので、次期役員として理事については再任、監事については新任で同意のあった下記を役員候補としたい。

理事候補者

1. 星野 敏
2. 西岡 孝幸
3. 柿崎 博美

監事候補者

1. 福田 稔